

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-217	高等学校	国語	古典探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	古探・104-903	改訂版 高等学校 古典探究		

<b>1. 編修の基本方針</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。</li> <li>● 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。</li> <li>● 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。</li> </ul>

<b>2. 対照表</b>		
図書の内容・構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文分野		
第一章・説話 第一章・軍記物語 第二章・説話	社会において個人の価値を認められて活躍した人物の登場する題材を扱うことにより、個人の能力や創造性を尊重する価値観の普遍性について考察できるようにした。(第2号)	58頁～69頁 162頁～175頁 194頁～197頁
第一章・歌物語 第一章・日記文学(二) 第二章・日記文学	和歌を通して表現されている心情を理解することで、豊かな情操を育てられるようにした。(第1号)	70頁～87頁 176頁～179頁 210頁～231頁
第一章・物語 第二章・物語	登場人物の細やかな心理描写を通して、豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)	108頁～127頁 232頁～267頁
第一章・随筆(一) 第二章・随筆	宮廷社会での作者の姿を通して、個人の能力を養い、自律した個人として生活する大切さの普遍性が理解できるようにした。(第2号)	88頁～101頁 198頁～209頁
第一章・随筆(二)	異なる立場で書かれた随筆を対比することにより、幅広い知識と教養を身に付けられるようにした。(第1号) 激動の時代を生きた中世の出家者の文学を扱うことにより、自己と社会との関わり方について考察を深められるようにした。(第3号)	128頁～143頁
第一章・和歌・歌謡・俳諧	和歌に表現された自然描写を通じて、自然の美に触れ、それを大切にする態度を養えるようにした。(第4号)	180頁～192頁

第一章・日記文学(一) 第二章・評論・注釈	先人がどのようにして古典文学を尊重しはぐくんできたかを理解できるようにした。(第5号)	102頁～107頁 290頁～313頁
第一章・歴史物語 第二章・歴史物語	さまざまな歴史上の人物が登場する題材を扱ったり、異なる立場で書かれた歴史物語を対比して扱ったりすることにより、歴史の伝わり方に対する考察を深め、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)	144頁～161頁 268頁～283頁
第二章・古文と漢文	漢詩を含む題材や中国故事をもとにした題材を取り上げることにより、日本文学と中国文学の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	284～289頁
第二章・近世随筆・近世小説	近世の学者の文章を通して学問や物の見方について考察することにより、社会の形成と発展に寄与する合理的な態度を養えるようにした。(第3号) 近世にいたって散文学の素材がどのように変化し、どのようにして享受されてきたかが理解できるようにした。(第5号)	314頁～326頁
漢文分野		
第一章・故事	漢文題材をさまざまな形(訓読・字音直読・現代語訳)で朗読させる課題により、日本語が漢文訓読を取り入れることで発展してきた歴史的背景の理解を深め、日本語と中国語の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	328頁～337頁
第一章・漢詩	漢詩を創作する課題を通じて情操を養うとともに、日本で中国の漢詩が受容されてきた歴史的背景への理解を深められるようにした。(第1号・第5号) 漢詩に表現された描写を通じて、自然の美に触れ、それを大切にすることを養えるようにした。(第4号)	338頁～351頁
第一章・史伝 第二章・史伝	古代の中国において個人の価値を發揮した人々の伝記を取り上げることにより、個人の能力や創造性を尊重する価値観の普遍性について考察できるようにした。(第2号)	352頁～373頁 436頁～457頁
第一章・思想	さまざまな思想家の考え方を取り上げることにより、幅広い知識と豊かな情操を養えるようにした。(第1号) 道家・法家と儒家の思想を対比する形で扱うことにより、自己と社会との関わり方について考察を深められるようにした。(第3号)	374頁～395頁
第一章・文章 第二章・文章	我が国で古くから名文の手本として読み継がれてきた漢文作品を取り上げることにより、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	396頁～410頁 458頁～467頁

第二章・逸話	我が国で古来読み継がれてきた『蒙求』に由来する逸話三編を取り上げるにより、日本文学と中国文学の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	412頁～419頁
第二章・小説	我が国の近代小説に影響を与えた中国の古典小説を取り上げるにより、日本文学と中国文学の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	420頁～435頁
第二章・漢詩	我が国の古典文学に大きな影響を与えた「長恨歌」等の作品を取り上げるにより、日本文学と中国文学の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	468頁～486頁

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、古典の理解を深めるために役立つ知識事項を「古文図録」「漢文図録」として巻頭巻末に掲載した。また、知っておきたい国語的教養に関する「ズームアップ」「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-217	高等学校	国語	古典探究	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	古探・104-903	改訂版 高等学校 古典探究		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ■全体

- 言語文化をさまざまな角度から考察したコラム「ズームアップ」を随所に収録した。

**ズームアップ**  
**説話文学**

◆ **説話とは**

説話とは、話のおもしろさにひかれて語り伝えられ、まとめられた文章である。日本で起こった事件や出来事のほか、仏典や漢籍などによって海外から渡来した逸話も多い。文学史上の最盛期は中世で、内容を大別すると、仏教の教えを説く「仏教説話」と、それ以外のさまざまな題材を扱う「世俗説話」とに分けることができる。さまざまな教訓や処世術、倫理観や宗教観などを説く作品も見られ、複数の作品に同じ逸話が収められることもある。

◆ **説話の特性**

説話は、伝承の過程で脚色されて、史実とは異なる話になることも多いのだが、逆に史実がどのように改変されているかを調べると、その説話を語り伝えた人々の思いが見えてくることがある。また、記録文書や歴史書だけではわからない、当時の生活習慣や風習などを読み取ることができる場合もある。

**ズームアップ**  
**諸子百家**

◆ **諸子百家の活躍**

春秋時代から戦国時代にかけて活躍した思想家とその学派を諸子百家と総称する。彼らは儒家・道家・法家などの学派に分かれ、特色のある学説を展開した。

◆ **儒家**

孔子は学問や礼によって人間性を高め、世を安定させようとした。彼は特に人を思いやる心の働きを重視して仁と呼び、孟子がこれを受け継いで、利によらない仁義を説いた。孟子の思想が人間は生来善良であるとする性善説であるのに対して、荀子は人性は悪であるとする性悪説に立つ。しかし人格の陶冶を第一とする考え方ではいずれも孔子を継承するもので、彼らの学派は一括して儒家と呼ばれる。

- 作品や文章の理解を深めるため、収録作品との比較読読解用教材を収録した「探究の扉」を用意した。

**探究の扉**  
**玉勝間**

兼好法師が詞のあげつらひ

兼好法師が徒然草に、「花は盛りに、月は隈なきをのみ見とか言へるは、いかにぞや。いにしへの歌どもに、花は盛なきを見たるよりも、花のもとには風をかこち、月の夜は待ち惜しむ心づくしを詠めるぞ多くて、心深きも、ことなるは、みな、花は盛りをのどかに見まほしく、月は隈なかに心のせちなるからこそ、さもえあらぬを嘆きたるなれ。いづれに風を待ち、月に雲を願ひたるはあらん。さるを、かの世とくくなるは、人の心に逆ひたる、後の世のさかしら心の作

◆ **兼好法師が詞のあげつらひ**

兼好法師が徒然草に、「花は盛りに、月は隈なきをのみ見とか言へるは、いかにぞや。いにしへの歌どもに、花は盛なきを見たるよりも、花のもとには風をかこち、月の夜は待ち惜しむ心づくしを詠めるぞ多くて、心深きも、ことなるは、みな、花は盛りをのどかに見まほしく、月は隈なかに心のせちなるからこそ、さもえあらぬを嘆きたるなれ。いづれに風を待ち、月に雲を願ひたるはあらん。さるを、かの世とくくなるは、人の心に逆ひたる、後の世のさかしら心の作

**探究の扉**  
**日本外史**

川中島

必<sup>②</sup>与<sup>③</sup>信<sup>④</sup>玄<sup>⑤</sup>親<sup>⑥</sup>戰<sup>⑦</sup>決<sup>⑧</sup>雌<sup>⑨</sup>雄<sup>⑩</sup>耳<sup>⑪</sup>進<sup>⑫</sup>渡<sup>⑬</sup>二<sup>⑭</sup>層<sup>⑮</sup>

信<sup>⑯</sup>玄<sup>⑰</sup>以<sup>⑱</sup>二<sup>⑲</sup>万<sup>⑳</sup>人<sup>㉑</sup>出<sup>㉒</sup>与<sup>㉓</sup>之<sup>㉔</sup>对<sup>㉕</sup>固<sup>㉖</sup>壘<sup>㉗</sup>不<sup>㉘</sup>

信<sup>㉙</sup>使<sup>㉚</sup>下<sup>㉛</sup>村<sup>㉜</sup>上<sup>㉝</sup>義<sup>㉞</sup>清<sup>㉟</sup>等<sup>㊱</sup>夜<sup>㊲</sup>伏<sup>㊳</sup>兵<sup>㊴</sup>而<sup>㊵</sup>曉<sup>㊶</sup>出<sup>㊷</sup>

甲<sup>㊸</sup>斐<sup>㊹</sup>墨<sup>㊺</sup>甲<sup>㊻</sup>斐<sup>㊼</sup>兵<sup>㊽</sup>出<sup>㊾</sup>追<sup>㊿</sup>之<sup>㋀</sup>陷<sup>㋁</sup>伏<sup>㋂</sup>皆<sup>㋃</sup>死<sup>㋄</sup>

乃<sup>㋅</sup>大<sup>㋆</sup>戰<sup>㋇</sup>終<sup>㋈</sup>日<sup>㋉</sup>七<sup>㋊</sup>合<sup>㋋</sup>迭<sup>㋌</sup>有<sup>㋍</sup>二<sup>㋎</sup>勝<sup>㋏</sup>敗<sup>㋐</sup>

① 川中島

② 必

③ 与

④ 信

⑤ 玄

⑥ 親

⑦ 戰

⑧ 決

⑨ 雌

⑩ 雄

⑪ 耳

⑫ 進

⑬ 渡

⑭ 二

⑮ 層

⑯ 信

⑰ 玄

⑱ 以

⑲ 二

⑳ 万

㉑ 人

㉒ 出

㉓ 与

㉔ 之

㉕ 对

㉖ 固

㉗ 壘

㉘ 不

㉙ 信

㉚ 使

㉛ 下

㉜ 村

㉝ 上

㉞ 義

㉟ 清

㊱ 等

㊲ 夜

㊳ 伏

㊴ 兵

㊵ 而

㊶ 曉

㊷ 出

㊸ 甲

㊹ 斐

㊺ 墨

㊻ 甲

㊼ 斐

㊽ 兵

㊾ 出

㊿ 追

㋀ 之

㋁ 陷

㋂ 伏

㋃ 皆

㋄ 死

㋅ 乃

㋆ 大

㋇ 戰

㋈ 終

㋉ 日

㋊ 七

㋋ 合

㋌ 迭

㋍ 有

㋎ 二

㋏ 勝

㋐ 敗

## ■古文分野

- 古典文法の体系的な学習ができるような題材を配列し、その文法事項の確認ができる「古文チェックポイント」を用意した。
- ・語彙力を養成できるよう、重要古文単語をまとめて、予習復習の一助とした。

古文チェックポイント④  
さまざまな敬語表現

敬語は単独で使われるだけでなく、組み合わせで敬意を強めたり、複数の対象に敬意を払ったりすることがある。古文は、身分制度が今よりずっと強固だった時代の文章である。敬語を読み解くことによって、動作の主体や登場人物の身分差が見えてくることも多い。

**1 最高敬語（二重尊敬）**

尊敬  
 (天皇は) 少しねぶら<sup>尊敬</sup>せ給ふを、(語・7)

天皇の動作について、書き手は尊敬の助動詞「す」と尊敬の補助動詞「給ふ」を用いて、尊敬表現を二つ重ねている。天皇や中宮をはじめとする最高階級の人やそれに準じる人の動作について表現するために用いられる二重の尊敬表現を最高敬語（二重尊敬）という。なお、会話文中では動作主の身分を問わず最高敬語が使われる場合があるので、注意が必要である。

5

## ■漢文分野

- 漢文特有の語順とその訓読処理について解説した「漢文チェックポイント」を設け、漢文読解が円滑にできるように配慮した。
- 地図資料を多用して、題材に関連した中国の地名等についてすぐに確認できるように配慮した。
- 漢文重要語と句法をまとめ、読解に必要な知識が予習・復習しやすいように配慮した。

漢文チェックポイント②  
兼語文

**1 兼語文とは**  
二つの文が一語を共有して一文になった文がある。これを兼語文という。

共有される一語は、「前の文の目的語」と「後の文の主語」を兼ねるので兼語という。兼語文には、使役の兼語文と存在の兼語文がある。

5

## ■デジタルコンテンツ

- 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容				該当箇所 [頁]	
単元	教材	知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等			
		(1)	(2)	A 読むこと	(1) (2)		
古文 第一章							
説話	大江山	ア・ウ・エ	イ	イ・ウ	ア	58	
	【探究の扉】およそ名を得たる人は	ア・イ	イ	ク	イ	60	
	兼盛と忠見	ア	イ	イ・カ	ア	62	
	用枝の筆策	ア・ウ	イ	イ・ウ	ア	64	
	古文チェックポイント1 係助詞の用法	ア	イ			66	
	古文チェックポイント2 敬語の基礎	ア	イ			68	
	【ズームアップ】説話文学	イ	ア			69	
	歌物語	初冠	ア・エ	イ	イ・エ	イ	70
		【探究の扉】初冠		エ	ウ	ア	72
		通ひ路の関守	ア	イ	ア・イ		76
渚の院		ア	イ	イ・オ	ア	77	
をばすて山		ア	イ	ア・オ	ア	80	
鳥飼の院		ア	イ	イ		82	
古文チェックポイント3 まぎらわしい語の識別		ア	イ			84	
【ズームアップ】十世紀の物語		イ	ア			87	
随筆(一)		すさまじきもの	ア	イ	イ		88
		中納言参り給ひて	ア	イ	イ		90
	御前にて人々とも	ア・エ	イ	イ・エ	ア	92	
	大納言殿参り給ひて	ア	イ	ア・イ		94	
	【言語活動の実践】「現古異義語」を調査する	ア	ウ	キ	カ	96	
	古文チェックポイント4 さまざまな敬語表現	ア	イ・ウ			98	
	【ズームアップ】随筆文学	イ	ア・エ			100	
日記文学(一)	東路の道の果て	ア	イ	イ		102	
	物語	ア・イ	イ・エ	イ・キ	オ	104	
	【ズームアップ】受領層の娘たち	イ	ア			107	
物語	光源氏誕生	ア	イ	イ・オ	ア	108	
	【探究の扉】不在を探そう		エ	ク	オ	112	
	藤壺の入内	ア	イ	イ		116	
	小柴垣のもと	ア	イ	イ		118	
	【ズームアップ】『源氏物語』の世界	イ	ア			124	
随筆(二)	ゆく河の流れ	エ		イ		128	
	養和の飢饉	ア	イ・エ	ア・エ	ア	130	
	閑居の気味			イ		133	
	【参考】『方丈記』は語る		エ	カ		135	
	あだし野の露	ア	イ	ア・イ・カ	ア	136	
	九月二十日のころ	ア	イ	イ		138	
	花は盛りに	ア	イ	イ		140	
	【探究の扉】兼好法師が詞のあげつらひ	ア	イ・エ	エ	イ	142	
歴史物語	【参考】雲林院の菩提講	イ	ア	イ		144	
	花山天皇の出家	ア	イ	ア・イ		146	
	三船の才	ア	イ	ア・イ		150	
	【探究の扉】源経信の三船の才	ア	イ	ク	イ	152	
	道長の剛胆	ア	イ	イ		153	
	南院の競射	ア	イ	イ・ウ・ク	イ	158	
	【ズームアップ】撰関政治と藤原道長		ア			160	
	軍記物語	忠度の都落ち	ア	イ	イ・オ	ア	162
		【探究の扉】『平家物語』の諸本比較	ア・イ	イ	エ	イ	166
		壇ノ浦	ア	イ	イ・オ	エ	170
日記文学(二)	【ズームアップ】文学と歴史の間	イ	ア・エ			174	
	なべて世の	ア・イ	イ・エ	イ・キ	オ	176	
和歌・歌謡・俳諧	大原まうで	ア	イ	イ・キ		178	
	やまと歌は・六歌仙	ア・エ	イ	イ・オ	ア	180	
	和歌・歌謡	イ・エ	イ	イ・オ	オ	182	
	江戸俳諧・発句	エ		イ・ウ・オ		189	
	【ズームアップ】連歌という文芸	イ	ア			192	
古文 第二章							
説話	両京の定め	ア	イ	イ・カ	イ	194	
	【探究の扉】福原遷都	ア	イ	イ・カ	イ	196	

随筆	二月つごもりごろに	ア	イ	イ		198
	【探究の扉】清少納言がこと	イ		ク	イ	200
	鳥の空音	ア	イ	イ		202
	宮に初めて参りたるころ	ア	イ	イ	ア	204
	古文チェックポイント5 二種類の用法を持つ敬語	ア	イ・ウ			208
日記文学	父の離京	ア	イ	ア・イ		210
	うつろひたる菊	ア	イ	ア・イ	ア	212
	【探究の扉】道綱母と兼家	ア	イ	イ・ク	イ	214
	鷹	ア・エ	イ	イ		216
	土御門邸の秋	ア	イ	イ		218
	水鳥の足	ア	イ	イ	ア	220
	同僚女房評	ア	イ	イ		222
	薫る香に	ア	イ	イ		224
	鎌倉への出立	ア	イ	イ		228
	【ズームアップ】日記文学の展開	イ	ア			230
物語	車争ひ	ア・エ	イ	イ・エ	ア	232
	須磨	ア・エ	ア・イ	イ・エ	ア	236
	明石の姫君入内	ア	イ	ア・イ		241
	紫の上の苦惱	ア	イ	イ		245
	柏木と女三の宮	ア		イ		248
	紫の上の死	ア	イ	イ		252
	【参考】紫の上		エ	カ		256
	浮舟	ア・エ	イ	イ		258
	継母の策謀	ア	イ	イ・キ	オ	263
	【ズームアップ】『源氏物語』以降の物語	イ	ア			266
歴史物語	貫之と躬恒	ア・エ	イ	イ		268
	道真と時平	ア	イ	イ・ウ	ア	270
	村上天皇と安子		イ	イ		275
	最後の除目	ア	イ	ア・イ		278
	【探究の扉】兼通と兼家	イ		ク	イ	281
古文と漢文	菅原道真	エ		イ		284
	王昭君	ア	イ	イ		286
	【探究の扉】王昭君(西京雜記)		ア	ク	イ	288
	【参考】王昭君を題材にした日本漢詩・歌謡	ア	ア	ク		289
評論・注釈	清少納言と紫式部	ア	イ	イ		290
	文	ア	イ	イ・エ・カ	ア	294
	本歌取り	ア	イ	イ		296
	俊成自讃歌のこと	ア	イ	イ		298
	独り雨聞く秋の夜すがら	ア	イ	イ		300
	【ズームアップ】中世の和歌	イ	ア			302
	「一夜」か「月ごろ」か	ア	イ	イ		304
	もののあはれを知る	ア	イ	イ		306
	行く春を・岩鼻や	ア	イ	イ		308
	秘すれば花	エ	イ	イ		311
近世随筆・近世小説	師の説になづまざること	ア	イ	イ		314
	【ズームアップ】近世の出版文化	イ	ア			317
	世界の借屋大将	ア		イ・カ	ア	318
	浅茅が宿	ア	イ	イ		322
漢文 第一章						
故事	買履忘度	ア	イ	イ		328
	漱石枕流	ア	イ	イ		329
	華歆・王朗	ア	イ	イ		330
	画竜点睛	ア	イ	イ		331
	江南橘為江北枳	ア	イ	イ		332
	【ズームアップ】訓読の歴史		ア・ウ		エ	334
	漢文チェックポイント1 漢文の語順	ウ				336
漢詩	中国の詩	ア・ウ・エ	イ	ア		338
	日本の詩	ア・ウ・エ	ア・イ	ア		346
	【言語活動の実践】漢詩を作ってみよう	イ・ウ・エ	ア・エ		ウ	349
史伝	鴻門之会	ア	イ	イ	ア	352
	四面楚歌	ア	イ	イ		360
	項王自刎	ア	イ		ア	363
	【探究の扉】項羽と「天」			エ・カ	ア・オ	366
	【ズームアップ】項羽と劉邦	ア	エ			368

	漢文チェックポイント2 兼語文	ウ	イ			372
思想	論語	ア	イ	イ		374
	孟子	ア・イ	イ	ア・イ		376
	荀子	ア・イ	イ	ア・イ・カ		380
	老子	ア	イ	イ		382
	莊子	ア	イ	イ・エ		385
	韓非子	ア	イ	イ		388
	【探究の扉】未来に備える遺伝子			オ	キ	390
	【ズームアップ】諸子百家			エ		393
	漢文チェックポイント3 前置詞	ウ	イ			394
文章	漁父辞	ア	イ	ア・イ		396
	桃花源記	ア	イ	ア・イ		399
	【探究の扉】トンネルが結ぶ異世界	ア	イ	イ	オ	402
	売油翁	ア	イ	ア・イ・エ		404
	漢文チェックポイント4 後置修飾語	ウ	イ			406
	【ズームアップ】道家思想とその影響	イ		エ		408
	【参考】『莊子』養生主篇・『莊子』天道篇			エ		409
漢文 第二章						
逸話	知音	ア	イ	イ		412
	梁上君子	ア	イ	イ		414
	三横	ア	イ	イ		416
	【ズームアップ】『蒙求』の受容		ア	エ	オ	418
小説	売鬼	ア	イ	イ		420
	人面桃花	ア	イ	イ・ウ		423
	酒虫	ア	イ	イ		427
	落雷裁判	ア	イ	イ		430
	【ズームアップ】中国の小説	イ	ア・エ	エ		433
	【探究の扉】義訓と振り仮名	エ	ウ	キ・ク	オ	434
史伝	伯夷・叔斉	ア	イ	イ		436
	【ズームアップ】司馬遷と『史記』	ア・イ	エ	エ		440
	廉頗・藺相如	ア	イ	イ		442
	荆軻	ア	イ	イ		448
	【探究の扉】日本外史	ア・イ	ア・イ	エ・ク	ア	455
文章	捕蛇者説	ア	イ	イ		458
	師説	ア	イ	イ		462
	【ズームアップ】唐宋八大家の文章	エ	ア	ア		466
漢詩	古体詩	ア	イ	ア・イ・ウ		468
	【参考】詩経大序	ア	イ	エ		468
	【ズームアップ】唐の繁栄と衰退	イ		イ		482
	【探究の扉】漢文と日本文学		ア	エ・ク	ア	484